

令和2年度行政評価 施策評価シート (令和元年度実績)

施策名 母子保健事業の推進・充実

施策コード 5020105

1. 施策の担当	
主管課	健康福祉部 健康推進課
関係課	国保年金課、子育て支援課

2. 総合計画における位置づけ				
総合計画	政策	第2章 ひとを豊かに育むまちづくり (子育て・教育)	節	第1節 子ども・子育て
	施策	母子保健事業の推進・充実		

基本方針

- ・子育て世代包括支援センターを拠点として、母子保健手帳発行時に専門職によって、それぞれに必要となる支援や地域の情報提供に努め、切れ目のない支援を図ります。
- ・母子健康診査受診率や予防接種の接種率の向上に努め、健やかに成長や発達ができるような支援を図ります。
- ・関係機関と連携し切れ目のない支援を通して、健やかに成長できるように虐待の予防や早期発見に努めます。

現況と課題

- ・ひとり親世帯や核家族、外国人居住者などによる多様化するニーズに伴い、子育てにかかわる保護者や家族が穏やかに子育てができる支援の充実と環境づくりが必要です。
- ・虐待の相談件数が増加していることから、その予防及び早期の発見が必要です。

施策目標

対象 (誰を、何を、どこを)

児及び保護者

意図 (どのような状態にしたいのか)

児が健やかに育つ環境を維持する

3. 市民ニーズ							
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
満足度 (偏差値)	65.3						
重要度 (偏差値)	59.1						

4. 施策にかかるコスト							
コストの内訳	人件費	千円	H30決算	R元決算			
	事業費		66,247	54,872			
	フルコスト		385,774	356,671			
財源内訳	国庫支出金	千円	5,109	10,624			
	府支出金		3,939	2,542			
	市債		0	0			
	その他		43,220	14,646			
	一般財源1 (=フルコスト-特定財源)		399,753	383,731			
	一般財源2 (=直接事業費-特定財源)		333,506	328,859			

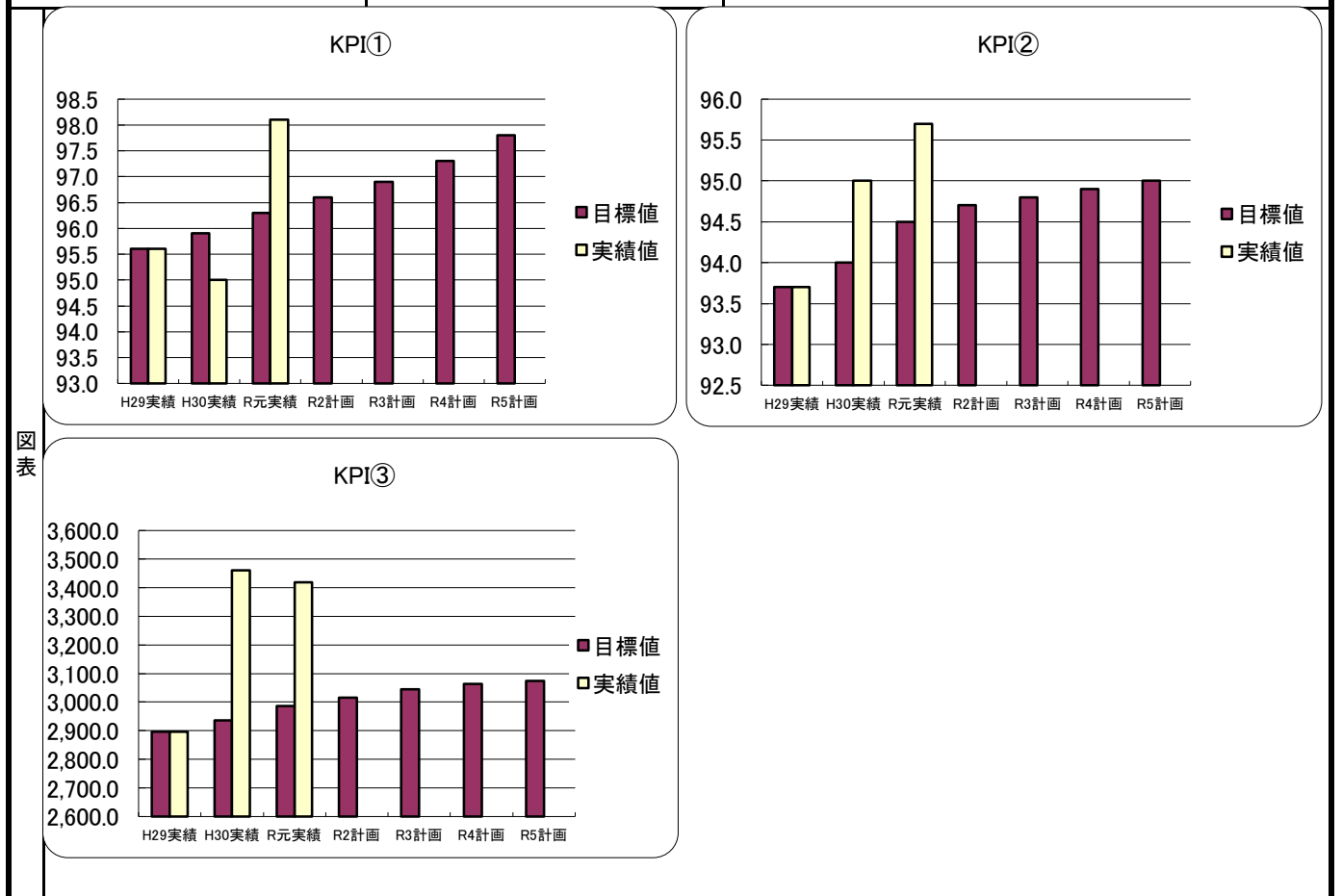
5. 施策の重要業績成果指標(KPI)							
① KPI 1 母子健康診査の受診率 (4か月児・乳児後期・1歳6か月児・3歳6か月児健診の平均)							
項目	H29実績	H30実績	R元実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5計画
目標値	95.6	95.9	96.3	96.6	96.9	97.3	97.8
実績値	95.6	95.0	98.1				
達成度	100.0	99.06	101.87				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景		
現状値も高い状況にあるが、未受診者対策を進めることにより、虐待の予防と早期発見、健やかな成長の支援につながる。		徹底したフォローを目指すため100%を最終年度の目標値とした。			母子健診については、児の年齢が上がるに伴い、低い受診率となる傾向が見られる。これは、児の健康状態に問題がなければ、保護者の都合を優先していることなどが要因として挙げられる。こうした未受診者には、再通知や電話、虐待の早期発見・予防の観点より訪問などで健診勧奨や児の状況確認をしている。継続的に行うことで健診の必要性の理解を求めているようにしている。		

② KPI 2		麻疹・風しん (MR) 予防接種の接種率					
項目	H29実績	H30実績	R元実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5計画
目標値	93.7	94.0	94.5	94.7	94.8	94.9	95.0
実績値	93.7	95.0	95.7				
達成度	100.0	101.06	101.27				

KPI設定の根拠	KPI目標数値の設定根拠	目標達成・未達成の理由・背景
接種している人の率を把握することにより、未接種者数の分析ができ、接種率向上に向けたアプローチ方法を検討する指標とすることができる。	風しん・麻疹に関する特定感染症予防指針の接種率目標95%を設定した。	予防接種の接種率については、母子健診と同様に、児の年齢が上がるにつれ低い接種率となる傾向がある。しかし、乳幼児期の接種については、専門職員の指導勧奨等の効果により高い接種率へと推移している。

③ KPI 3		母子保健相談件数（妊産婦）					
項目	H29実績	H30実績	R元実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5計画
目標値	2,896.0	2,936.0	2,986.0	3,015.0	3,044.0	3,064.0	3,074.0
実績値	2,896.0	3,461.0	3,419.0				
達成度	100.0	117.88	114.5				

KPI設定の根拠	KPI目標数値の設定根拠	目標達成・未達成の理由・背景
保健師などの専門職が関わる健康相談、訪問の実施により、保護者と子どもの心身の健康の維持に努め、発達障害や虐待の予防・早期発見が出来る。	妊産婦の個別相談、電話相談、家庭訪問の相談数を概ね年間30人程度の相談件数の増加を目標とした。	母子の心身の健康の維持を目的とした相談件数は、R元年度は微減したが、出生数が減っていることを考慮すると年々増加傾向である。



6. 施策の事後評価			
	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
一次評価 (担当課による評価)	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 4	母子健診及び予防接種について、周辺市町も本市と同様の受診率、接種率である。対象児の低年齢健診の受診率や予防接種の接種率は90%を超えた高い水準にあるが、保護者の意識により左右されるものとなる。妊産婦の相談件数は、丁寧なフォローを実施するようにしている。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 3	事業実績は毎年90%前後を推移しており、母子健診・予防接種に対する市民のニーズは高く、また、妊産婦の相談もニーズが高い。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 3	母子健診については、虐待予防という観点からも非常に重要視されてきている。また、予防接種では、国において新種ワクチン接種の定期化へ向けて検討が繰り返されている。今後、新種ワクチンの定期化が実施される見込みである。
	合計点	(10点中) 10点	
	総合評価	A	児の健やかな成長のためには、母子保健事業、予防接種事業は欠かすことのできない事業であり、法律も社会情勢に応じ随時整備されてきている。本施策の事業目標は100%としているが、達成できるよう未受診者対策を更に充実させていく必要がある。
二次評価 (政策推進課・行財政管理課による評価)		A	引き続き、疾病の予防を図るため、受診率と接種率の向上に努めること。
三次評価 (理事者による評価)		A	引き続き、疾病の予防を図るため、受診率と接種率の向上に努めること。

7. 施策を構成する事務事業							
事務事業			R元年度決算額			R2年度予算	一次評価
	予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源		
1	01026800	母子保健健康診査事業	22,238	103,245	99,435	0	B
2	01026900	母子保健健康管理事業	19,659	2,380	1,730	0	B
3	01027300	予防接種事業	11,711	246,849	223,497	0	B
4	01083193	不妊治療支援事業	1,264	4,197	4,197	0	B
合計			54,872	356,671	328,859	0	